様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：３７１０２
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７２０１１１

研究課題名（和文）『石清水物語』第三系統諸伝本に関する本文研究及び校本作成

研究課題名（英文）The bibliographical research and making the compilation of varying texts of Iwashimizumonogatari what belong to the third genealogy

研究代表者
宮崎　裕子（MIYAZAKI, Yuko）

九州産業大学・国際文化学部・講師

研究者番号：４０５８１５３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,000,000円、（間接経費）　900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は、『石清水物語』第三系統伝本に関する書誌調査及び本文研究を実施し、同系統の諸本を校合した校本の作成を目指すものであった。
　研究期間内に得られた主な成果は、従来、第三系統伝本の善本（原態に最も近い本）は射和文庫蔵本であるとされていたが、実際の善本は本居宣長記念館蔵本であると明らかにしたこと、『石清水物語』研究者にすら存在を知られていなかった石水博物館蔵本を新資料として紹介したこと、同本も含めた第三系統伝本13本を四つに分類したこと、さらに、これらの調査結果を踏まえて作成した校本を刊行するに至ったこと（『石清水物語の研究―第三系統伝本の校本と影印』新典社、2014年3月）である。

研究成果の概要（英文）：This study aims to research on the manuscript copies of Iwashimizumonogatari what belong to the third genealogy and make the compilation of varying texts of that.The results of this study are shown below.
(1)The bibliographically best text of the manuscript copies of Iwashimizumonogatari what belong to the third genealogy is owned by Motoori Norinaga-Memorial Hall. (2)Introduced the new manuscript copies of Iwashimizumonogatari owned by Sekisui- Museum. (3)Classified the manuscript copies of Iwashimizumonogatari what belong to the third genealogy into four types. (4)Published the compilation of varying texts of Iwashimizumonogatari what belong to the third genealogy.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：文献学　書誌学　石清水物語

１．研究開始当初の背景

(1)『石清水物語』について

鎌倉時代の成立と推定される『石清水物語』は、「擬古物語」あるいは「中世王朝物語」と呼ばれるジャンルに属する作り物語である。王朝物語には珍しく東国で生まれ育った武士が主人公であり、武家の信奉を集めた石清水八幡宮の神託が物語を動かす契機として大きな意味を持っている。

(2)「中世王朝物語研究」の現在

鎌倉期から室町期にかけて作られ続けた作り物語は、『源氏物語』『夜の寝覚』『狭衣物語』といった古典の模倣に過ぎない亜流作と見なされて「擬古物語」と呼ばれていた。しかし、近年、その価値を積極的に評価しようという気運が高まり、「中世王朝物語」との呼称が提唱され、「擬古物語」と貶められてきた作品たちに前代の模倣にとどまらない独自性を見出し、「中世王朝物語」としての評価を確立することに力が注がれてきた。その成果は徐々に顕れ、中世王朝物語を研究対象とする研究者の裾野が広がり、関連する論攷も年々増えつつある。

その一方で、「中世王朝物語研究」という分野においては、対象とする作品の真価を問い直し、そこに新たな価値を見出すことに重点を置く余り、本文批判・本文解釈といった基礎的作業が手薄なまま放置されてきた感がある。中世王朝物語が長年に亘り、その価値を論ずる必要もないとされるほど軽視されてきたという事情に鑑みれば、それも仕方のないことと言えようが、本文の不審箇所を正すために必要不可欠である基礎研究を疎かにしたままの作品研究は、ともすれば実証性を欠くものとなる恐れがあり、「中世王朝物語研究」が「人文科学」として成り立たなくなる危険性を孕んでいる。「中世王朝物語研究」を一過性のブームに終わらせることなく、更なる発展へと飛躍させるために、「中世王朝物語研究」という分野が確立されつつある今こそ、古典文学研究の原点に立ち戻り、基礎的研究の充実を図ることが必要なのである。

(3)中世王朝物語の本文研究

古典文学の基礎的研究として、諸伝本を校合した上での本文批判は必須であるはずだが、そもそも中世王朝物語には伝本の稀なものが多く、孤本の『在明の別』『風に紅葉』、残欠本が伝わるのみの『風につれなき』『雫ににごる』など、他本との校合が不可能な作品も少なからず存在する。

その中で『石清水物語』に３０本程の伝本が現存するのは僥倖とも言うべきことであるが、諸伝本の校合が為されていない現状では、その幸運を十二分に活かしているとは言い難い。

前に名を挙げた『源氏物語』『夜の寝覚』といった平安朝の作品であれば、すでに校本や諸本集成の類が充実しているため、本文に疑問がある場合も比較的容易に諸本の異同を確認できる。それに比して、中世王朝物語の場合、『とりかへばや』『しのびね』『我身にたどる姫君』などの校本がすでに刊行されてはいるものの、未だそうした基礎的な本文研究が行われていない作品が多く、「中世王朝物語研究」は、立ち後れている基礎的研究を充実させ、まずその環境を平安朝物語研究の水準にまで引き上げる必要がある。

(4)『石清水物語』の伝本について

①前述のように、『石清水物語』には近世期以降に書写された３０本程の写本が伝わっており、それらが四つの系統に分類されたのは桑原博史氏の調査による（同氏著『中世物語の基礎的研究 資料と史的考察』風間書房、1969 年）。その内の第二系統から派生したとされる第三系統の写本は、どのような経緯によるのかは不明だが『正三位物語』の名を冠され、「本居宣長」の名が記された奥書を持つ。

本研究において、この第三系統を選出したのは、本居宣長の手を経て国学者たちの間で流布した可能性が高く、前述のように四系統中最も伝本の数が多い、という理由からである。

②研究開始時に存在が確認されていた第三系統伝本は、以下の１３本である。

本居宣長記念館蔵本・射和文庫蔵本・国立国会図書館蔵本・東京大学文学部国文学研究室蔵本・刈谷市立図書館村上文庫蔵本・無窮會図書館蔵本・大阪府立中之島図書館蔵本・筑波大学附属図書館蔵箱入り本・金沢大学附属図書館蔵本・筑波大学附属図書館蔵本・内閣文庫蔵本・竹柏園旧蔵本・実践女子大学蔵本

２．研究の目的

本研究は、四系統に分類される『石清水物語』の諸伝本を校合した網羅的な校本の作成を最終目標とし、その第一段階として、四系統中最も伝本数の多い第三系統に属する諸本を対象に、書誌調査及び校本の作成を実施するものである。

３．研究の方法

(1)書誌調査

第三系統諸伝本の関係を明らかにして、それらを分類するためには、各本の配字配行、仮名の字母、注記の内容などを精査して転写の過程を辿る必要がある。それゆえ、マイクロフィルムの紙焼写真では確認のできない、文字の修正箇所（誤写した文字を削って書き直した箇所、重ね書きによる修正など）、朱書された注記の有無などの調査が不可欠であり、各本の所蔵元に赴いて書誌調査を実施した。

(2)校本作成
　まず、写本の本文・注記を翻字して電子テキストを作成した。
　それぞれのテキストを校合した校本は、科学研究費補助金基盤研究(Ｃ)「文字列データ解析システムの構築と平安朝文学の伝本と表現に関する総合的研究」(課題番号22500236、研究代表者・福田智子氏、研究機関・同志社大学、平成22～24年度)において開発中の「校本作成ツール」の提供を受けて作成した。

４．研究成果
(1)善本の特定
　『石清水物語』第三系統伝本の大きな特徴は、『石清水物語』ではなく『正三位物語』の名を冠されていることである。現在所在が確認されている同系統本のほとんどは、「正三位物かたり柴田常昭か本をかりてうつさせたる一かへりよみあはせたゝしつ　寛政六年八月十一日　本居宣長」と記された奥書を持ち、本居宣長所有本を祖本とするものであることが判明している。
　従来、この第三系統の善本と考えられていたのは、宣長の門人竹川政信の長男竹斎が創設した射和文庫が所蔵する射和文庫蔵本であり、前述のように同本は『石清水物語』が『鎌倉時代物語集成 第二巻』(市古貞次・三角洋一両氏編、笠間書院、1989年）に収録される際の底本にも採用された。
　しかし、本研究により、第三系統の善本である本居宣長所有本は宣長自筆の題簽・書入を有する本居宣長記念館蔵本であり、射和文庫蔵本はこの本の影写本であったことが判明した。
　この本居宣長記念館蔵本は、2001年に重要文化財に指定されるまで、同館の収蔵品目録などにも「宣長自筆書入本」であることが紹介されておらず、その一方で、射和文庫蔵本の上冊表紙には「本居宣長所蔵本　奥に自筆読合の書云々」と記され、また、本居宣長記念館蔵本を透き写しした射和文庫蔵本の奥書が宣長の筆跡に酷似していることなどから、射和文庫蔵本が宣長所有本と誤解され、第三系統の善本と考えられていたようである。

(2)新出資料の紹介
　『国書総目録』『古典籍総合目録』も含めて、刊行された目録類に記載されておらず、中世王朝物語研究者にもその存在を知られてはいなかった石水博物館蔵『正三位物語』を調査し、『石清水物語』第三系統伝本の一つとして紹介した。
　石水博物館蔵本の第三系統内における位置付けについては、今後、第三系統の祖本である第二系統伝本との比較検討を踏まえた精緻な調査を行う予定であるが、同本は、宣長の奥書がないことなどから、本居宣長記念館蔵本を経ずに成立した可能性が高い伝本である。
　ただし、実際に本居宣長記念館蔵本を経ずに成立していたとしても、両伝本には配字配行や字母にかなりの一致が見え、共通誤謬もあることから、祖本は共通のものと考えられる。

(3)第三系統伝本の分類
　本研究による調査の結果、近世期に書写された、あるいは近世期の書写と推定される第三系統伝本１３本は、以下の四つに大別できることが判明した。
①一類本
　本居宣長記念館蔵本・射和文庫蔵本・国立国会図書館蔵本・東京大学文学部国文学研究室蔵本・刈谷市立図書館村上文庫蔵本・無窮會図書館蔵本・大阪府立中之島図書館蔵本
＊本居宣長記念館蔵本とその影写本の系統であり、大阪府立中之島図書館蔵本を除く５本の旧蔵者は宣長の門人やその流れを汲む国学者であったことが確認された。

②二類本
　筑波大学附属図書館蔵箱入り本
＊一類本とは配字配行が若干異なる。

③三類本
　金沢大学附属図書館蔵本・筑波大学附属図書館蔵本・内閣文庫蔵本
＊一類本の無窮會図書館蔵本との共通誤謬が複数あるため、同本から派生したものと考えられる。一・二・四類本とは配字配行、丁数、分冊形態に大きな違いがある。

④四類本
　石水博物館蔵本・竹柏園旧蔵本(天理大学附属天理図書館蔵本)
＊本居宣長の奥書を持たない伝本である。竹柏園旧蔵本は石水博物館蔵本の影写本と考えられる。一～三類本に比して異同が圧倒的に多く、前述のように、本居宣長記念館蔵本を経ずに成立した可能性を持つ。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）
①宮崎裕子、「『石清水物語』第三系統諸伝本に関する研究（二)」、文献探究第51号、5－12頁、査読無、2013年

②宮崎裕子、「『石清水物語』第三系統諸伝本に関する研究（一)」、文献探究第 50 号、34－60頁、査読無、2012年

〔学会発表〕（計１件）
宮崎裕子、「石水博物館蔵『正三位物語』について」、平成24年度九州大学国語国文学会、

於九州大学中央図書館、2012 年 6 月 3 日

〔図書〕（計１件）
宮崎裕子、『石清水物語の研究―第三系統伝本の校本と影印―』、新典社、2014 年 3 月、全 639 頁

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
①宮崎裕子、「『石清水物語』第三系統の分類について」、同志社大学人文科学研究所第 18 期研究会（京都と文化）第 17 研究会・科学研究費助成事業基盤研究（C）「伝統文化形成に関する総合データベースの構築と平安朝文学の伝承と受容に関する研究」夏の研究集会、於同志社大学今出川キャンパス、2013 年 8 月 29 日

②宮崎裕子、「『正三位物語』―本居宣長記念館蔵本と射和文庫蔵本との異同について―」、「科学研究費補助金基盤研究Ｃ　文字列データ解析システムの構築と平安朝文学の伝本と表現に関する総合的研究　夏の研究集会」、於同志社大学今出川キャンパス、2012 年 8 月 27 日

③宮崎裕子、「射和文庫蔵『正三位物語』―『石清水物語』第三系統伝本―について」、科学研究費補助金基盤研究（C）「文字列データ解析システムの構築と平安朝文学の伝本と表現に関する総合的研究」夏の研究集会、於同志社大学今出川キャンパス、2011 年 8 月 23 日

６．研究組織
(1)研究代表者
宮崎　裕子（MIYAZAKI, Yuko）

研究者番号：４０５８１５３３

(2)研究分担者
該当者無し（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
該当者無し（　　）

研究者番号：